

東京大学大学院 医学系研究科

公共健康医学専攻 〈専門職大学院〉

School of Public Health, The University of Tokyo

Epidemiology and Health Sciences

Biostatistics
Social and Preventive Epidemiology
Clinical Epidemiology and Health Economics
Health Communication
Cancer Epidemiology

Behavioral Health Sciences

Mental Health
Department of Health and Social Behavior
Health Education and Health Sociology
Health Promotion Science
Biomedical Ethics
Human Resource Development for Health

Health Services Sciences

Health Policy
Clinical Information Engineering
Healthcare Informatics
Forensic Medicine and Medical Law
Public Health Science
Patient Safety & Risk Management
Environmental Health Sciences

目次

本専攻の概要	1
公共健康医学専攻を構成する講座・分野および担当教員の一覧	2
疫学保健学大講座	
生物統計学分野	3
社会予防疫学分野	4
臨床疫学・経済学分野	5
医療コミュニケーション学分野	6
【連携講座】がん疫学	7
行動社会医学大講座	
精神保健学分野	8
保健社会行動学分野、健康教育・社会学分野	9
健康増進科学分野	10
医療倫理学分野	11
保健医療人材育成学	12
医療科学大講座	
健康医療政策学分野	13
臨床情報工学分野	14
医療情報システム学分野	15
法医学・医事法学分野	16
【協力講座】医療安全管理学寄附講座	17
【協力講座】疾患生命工学センター 健康・環境医工学部門	18
教育課程等の概要	19
授業科目一覧	21
2011 年度～2015 年度 受験・合格者状況	25
English Version : The Course Guide of the School of Public Health	27
公共健康医学専攻修了生からのメッセージ	32
アクセスマップ	35

本専攻の概要

本専攻は、国民や地域住民、患者も含めた広範な人々の健康の維持、増進、回復及び生活の質（quality of life）の改善において、指導的な役割を果たす公衆衛生分野の高度専門職業人を養成することを目的とする専門職大学院で、平成19年度に開設されました。

公衆衛生学は社会に直接関わる研究分野としてますます発展してきており、研究も学術性だけではなく実地的な成果が期待されています。急速に進行する少子高齢化、地方分権、突発的な新興・再興感染症やバイオテロの発生、労働現場における過労死・自殺等の増加、医療事故や医療経営環境悪化などの現代的問題への対応は、わが国の喫緊の課題です。そのため人間集団の健康を対象にした分析手法を見につけ、保健医療に関わる社会制度を体系的に理解し、政策立案・マネジメント能力に優れたパブリックヘルス・マインドを持った高度専門職業人の育成が急務となっています。

東京大学大学院医学系研究科では、公衆衛生領域のこうした高度専門職業人養成のための専門職大学院として公共健康医学専攻を平成19年4月に新設しました。通常の標準修業年限2年のコースに加えて、医療関連で一定程度的実務経験を有する人には標準修業年限1年のコースが用意されている点が大きな特徴で、修了者には公衆衛生学修士（専門職）－英語名：Master of Public Health(MPH)－が授与されます。本専門職大学院では、公共性や職業倫理を重視しているため、専攻名を公共健康医学としていますが、内容的には海外の公衆衛生大学院に相当するものです。

2015.7.1

大講座	分野名（教室名）	教授	准教授	講師
疫学保健学	生物統計学	松山 裕	大庭 幸治	
	社会予防疫学	佐々木 敏		
	臨床疫学・経済学	康永 秀生		
	医療コミュニケーション学	木内 貴弘	石川 ひろの	
	【連携講座】がん疫学	井上 真奈美（兼）		
行動社会医学	精神保健学	川上 憲人	島津 明人	
	健康教育・社会学 *		近藤 尚己	
	保健社会行動学	橋本 英樹		高木 大資
	健康増進科学		李 廷秀	
	医療倫理学	赤林 朗	瀧本 禎之	上竹 勇三郎
	保健医療人材育成学	北村 聖（兼）		大西 弘高（兼） 孫 大輔（兼）
医療科学	健康医療政策学	小林 廉毅	豊川 智之	
	臨床情報工学	小山 博史		
	医療情報システム学	大江 和彦	脇 嘉代（兼）	田中 勝弥（兼） 新 秀直 今井 健（兼）
	法医学・医事法学	岩瀬 博太郎（兼）		槇野 陽介
	【連携講座】保健医療科学		福田 敬	
	【協力講座】医療安全管理学寄付講座	児玉 安司 （特任）		
	【協力講座】疾患生命工学センター 健康環境医工学部門		大迫 誠一郎	

* 研究分野の詳細については保健社会行動学を参照のこと

松山 裕 教授 / 大庭 幸治 准教授
Matsuyama, Yutaka / Oba, Koji



1.「生物統計学」とは？

生物統計学は、医学研究(基礎・臨床・疫学)の実践においてデザインと統計解析に関する統計的方法論を提供する分野です。わが国における生物統計学の教育は欧米に比べ遅れ、講座の設立は 1992 年の東京大学医学部健康科学・看護学科(現:健康総合科学科)の疫学・生物統計学が最初でした。その後、京都大学、東京理科大学等にも講座や大学院教育コースが開設されましたが、東京大学には他大学、国立がん研究センター、製薬企業等に多くの人材を供給し、教育・研究の面でこの分野をリードしてきた実績があります。公共健康医学専攻においては、臨床試験と薬剤疫学を含む疫学研究について、研究デザインと統計解析に関する実践的な教育を行います。

2.担当科目、課題研究テーマ

医学データの統計解析(講義)、医学統計学演習、医学研究のデザインを担当します。生物統計学分野は、附属病院臨床研究支援センター、国立がん研究センター、NPO 日本臨床研究ユニット、財団法人パブリックヘルスリサーチセンター臨床研究支援事業

などの学内外の組織と協力して、主に研究者主導の臨床試験・疫学研究の支援を共同研究として多数行っています。公共健康医学専攻の院生に対しては、このような共同研究の場を課題研究およびインターンシップに活用する予定で、研究デザイン、研究の立ち上げと管理、統計解析と報告といった研究の一連の流れを体験できる体制を提供していきたいと考えています。方法論の研究としては、臨床試験のデザイン、因果推論、メタ・アナリシス、疫学研究のデータ解析、QOL 調査とそのデータ解析などが現在のテーマの中心です。

3. 本分野の教育・研究活動の詳細

さらに詳細な情報は、HP をご覧ください。

<http://www.epistat.m.u-tokyo.ac.jp/>

生物統計学分野の教育・研究活動に関心のある方は遠慮なくご連絡ください。

佐々木 敏 教授

Sasaki, Satoshi



1.「社会予防疫学」とは？

健康状態や疾患発生を集団内で計量的に把握し、疾患発生リスクになりえる因子と疾患発生との関係を統計的に分析し、疾病予防や効率的な保健活動につなげる学問が疫学です。飲酒・喫煙、栄養や身体活動など古典的な因子に加え、最近は遺伝子やその発現をコントロールする因子、社会経済因子を対象とする疫学研究も世界的に盛んになっています。薬物など治療の評価を行うためにも、疾患発生状況に関する疫学データが必要です。さらに、疫学は、研究方法論を提供するとともに予防保健を実践する実学として、健康科学の中心をなす分野ですが、残念ながらわが国ではその教育体制も研究体制も十分ではありませんでした。

「社会予防疫学」は、人間社会で起こっているさまざまな現象（個人の生活習慣も含む）と疾病との関連について疫学的手法を用いて明らかにするとともに、それを疾病予防・疾病コントロールに用いるための具体的な方策を探る学問です。

2.「栄養疫学」とは？

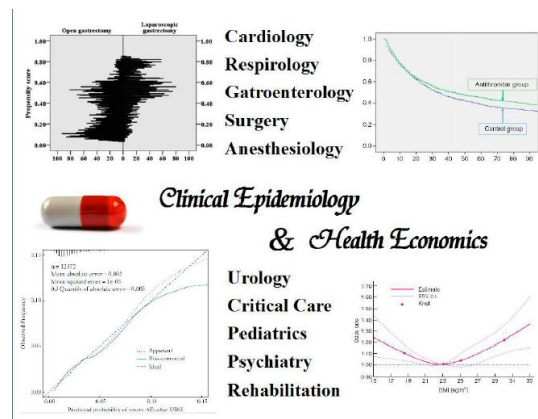
疫学研究のなかで、栄養や食べ物、食べ方など、「食」を扱った研究を、特に「栄養疫

学」と呼びます。当研究室ではこの「栄養疫学」研究を実施しています。食事摂取状況の正確な記述、食事と疾病との関連の検討に加え、そのような研究を実施する際に必要な調査方法論の研究、また、食事摂取基準等のガイドライン作成に必要なエビデンスの構築に特に力を入れています。

3.担当科目、課題研究テーマ

「疫学研究と実践」、「予防保健の実践と評価」を担当します。疫学研究には対象者の協力が不可欠であり、また研究の最終的な目標は疾病の予防と健康状態の向上です。そのための合意形成と情報のフィードバックに必要な知識・技術も重要な教育内容となります。学内外の研究グループと協力して、現在進行中のさまざまな疫学研究の実務作業に参加してもらい、それによって得られたデータを用いて課題研究を実施する予定です。また、これからのわが国で重要な、しかし十分な教育研究体制の確立していない「栄養疫学」について、研究と実践を行っていきます。

康永 秀生 教授
Yasunaga, Hideo



1.「臨床疫学・経済学」とは？

臨床疫学は、臨床の問題を扱うという点で極めて臨床的であると同時に、疫学の手法を用いるという点で極めて公衆衛生的です。医学の国際的潮流である EBM を実践する基盤となる学問領域として、その重要性は増大する一方です。

また、超高齢社会のもとでの医療資源の制約と医療の効率化の社会的要請を背景として、医療経済学の重要性はかつてないほど広く認識されるに至っています。臨床は個々の患者の生命を救い健康を回復維持することが主眼です。一方、経済学では社会全体での最適な資源配分のあるべき姿を議論します。両者はそのアプローチの方法こそ違いますが、人々の幸福を実現することを目指すという根本的な目的部分では通底します。

本学の公共健康医学専攻(SPH)における教育の目的は、専門性と公共性を兼ね備えた公衆衛生のプロを養成することです。中でも臨床疫学・経済学を実践する専門家の育成は国家的急務であるといえるでしょう。

2.担当科目、課題研究テーマ

臨床疫学研究のテーマは、日常臨床の中に潜んでいます。Clinical practice から research question を紡ぎ出し、研究仮説を立て、適切なデザインを構築し、利用可能なデータから意味のある分析結果を出し、臨床的に妥当な解釈を行います。臨床疫学講義では、これら一連のプロセスを遂行するために不可欠となる臨床疫学の理論および実践的な方法論を身につけます。

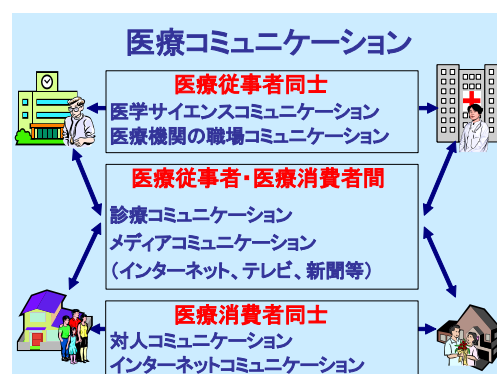
保健医療経済学講義では、医療経済学の基礎を身につけた上で、医療経済学の考え方や理論について理解を深めてもらいます。医療技術評価学演習では、医療技術の有効性評価および費用効果分析について実践的な知識と技術を身につけます。

臨床疫学・経済学演習では、学生各人が具体的な臨床的関心あるいは公衆衛生学的関心に基づき、研究の proposal writing ができる実践的なスキルを身につけます。さらに医学英語論文の書き方の基本を学びます。

課題研究テーマは臨床疫学、医療経済学に関することであれば、何でも相談に応じます。

木内 貴弘 教授 / 石川 ひろの 准教授

Kiuchi, Takahiro / Hirono Ishikawa



1.「医療コミュニケーション学」とは？

医療コミュニケーション学とは、医療(広く公衆衛生を領域を含む)分野におけるコミュニケーションを対象とした学問分野です。日本では、医療コミュニケーション学、医学コミュニケーション学等と呼ばれることが多いのですが、英語圏では Health Communicationという言葉を用いるのが一般的です。

医療・公衆衛生の分野では、さまざまな場面でコミュニケーションが重要な課題として認識されるようになってきました。医療・公衆衛生分野での具体的なコミュニケーションの機会として、1)医療従事者・医療消費者間のコミュニケーション、2)医療従事者間のコミュニケーション、3)医療消費者間のコミュニケーションが主として考えられます。これらのコミュニケーションは、古くは対人で行われていましたが、現代では、各種のメディアを介したコミュニケーションも重要性が増しています。

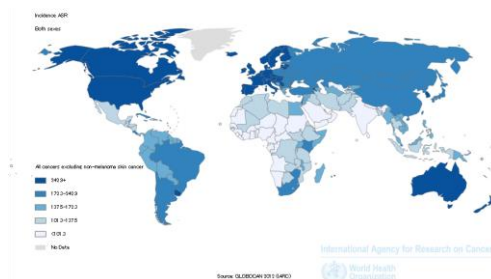
2.担当科目、課題研究テーマ

講義については、医療コミュニケーション学、演習については医療コミュニケーション学演習を担当します。課題研究のテーマとしては、主として下記を考えていますが、医

療コミュニケーション関連で自分のやりたいテーマがある場合には、是非ご相談ください。

- ・ インターネット介した各種コミュニケーションサービスの構築・運用・評価
- ・ インターネット上の医療コミュニケーションシステムの分析・評価
- ・ マスメディア等における健康・医療関連記事・番組等の分析・評価
- ・ 医学文献情報の分析と評価(サイエンスコミュニケーション)
- ・ エンターテインメントと教育の融合(エデュテインメント)に関する研究
- ・ 患者-医療者間コミュニケーションの分析と評価
- ・ 患者・市民のヘルスリテラシーの評価とその教育に関する研究
- ・ 医療面接教育・コミュニケーションスキル評価に関する研究

Burden of Cancer in the world (Incidence ASR, 2012)



井上 真奈美 特任教授

Inoue, Manami

1.「がん疫学」とは？

がん疫学とは、「がん」という疾病を軸に、その地理的分布や経年推移、要因の探索、予防法について、疫学手法を駆使して、体系的に捉える学問領域です。

がんは一つにくられる疾病群でありながら、その疫学的特性は部位によっても様々です。一方で、がんは現在、世界の多くの国で主要な疾病となっています。さらに、がんは、生活習慣が大きく関連して起こる生活習慣病でもあり、予防可能な要因の多くは、循環器疾患や糖尿病など、他の生活習慣病とも共通しています。そのため、公衆衛生に従事する専門家としてがん疫学を体系的に理解することにより、その他の生活習慣病予防の実践にも大いに役に立ちます。

さて、集団レベルでのがんの予防をめざすには、その背景にあるがんの地理的分布や推移を把握した上で、予防に向けた要因の解明が必須です。がん疫学分野では、がん記述統計の必須基盤としてのがん登録手法、がんの要因を解明するための分析疫学研究、一つ一つの疫学的エビデンスを施策に結びつけるための橋渡し研究であるシステマティック・レビューやメタ・アナリシス、統合解析、エビデンスに基づくがん予防法やがん検診の考え方について、国内外の状況や事例も網羅して、系統的に学びます。最

終的に、エビデンスに基づくがん予防の実践のプロセスを習得することが、がん疫学分野のねらいとなります。

2.担当科目、課題研究テーマ

がん疫学分野では、それに含まれるトピックは、広く課題研究テーマとして扱います。がん記述統計やその国内外比較研究、現在進行中のコホート研究集団等を用いたがんの要因に関する分析疫学研究、システマティック・レビューやメタ・アナリシス、統合解析、他、様々な手法を用いた課題研究に対応しますが、原著的課題研究については、査読誌での論文化を前提とします。がん疫学に関連する要因として、生活習慣・環境・食事要因をコアに、そのバイオマーカーや環境遺伝交互作用もターゲットとなり得ます。また統合解析は、国内外のコホート連合などの統合解析基盤を利用して研究の機会を提供します。

がん疫学研究においては、研究連携基盤として国立がん研究センター、地域がんセンターなどの研究機関が大きな役割を果たしています。そのため、必要な場合、積極的に関係者と連携をすることにより、課題研究の機会提供と質的強化をはかります。

川上 憲人 教授 / 島津 明人 准教授
Kawakami, Norito / Shimazu, Akihito



1.「精神保健学」とは？

精神保健学とは、21 世紀の最も重要な健康課題の1つである「心の健康」の本質の理解とその保持・増進のために、公衆衛生学に加えて、精神医学、心理学・行動科学、社会学などの方法論を組み合わせる学際的な研究領域です。当分野は 50 年以上の歴史を持っていますが、現在は特に精神保健疫学および職場のメンタルヘルスについて、多数の研究を実施しています。例えば精神疾患の大規模疫学調査である世界精神保健日本調査を実施し、世界 28 カ国との共同研究を行っています。オランダユトレヒト大学とは、労働者のワーク・エンゲイジメント(仕事へのポジティブな関わり)の共同研究を進めています。毎年、20-30 編の英文原著論文を国際誌に公表しています。

教育では、研究者の養成だけでなく、研究と実践とをつなぐことのできる専門家の養成に力を入れています。例えば、「東京大学職場のメンタルヘルス(TOMH)プログラム」では、基礎コース(公開講座)、研究会、交流会などを定期的に開催し、職場のメンタルヘルスの世界的な研究者の育成とともに、国内リーダーの養成を行っています。大学院の修了生は、公的機関や民間シンクタンク、大学・研究所などで活躍しています。

2.担当科目、課題研究テーマ

担当科目は、精神保健学Ⅰ(精神保健疫学の基礎と精神保健対策の立案)、精神保健学Ⅱ(職場のメンタルヘルス)です。

精神保健のトピックスは今日、慢性精神障がい者のケアのみならず、うつ・自殺対策、健康いきいき職場づくり、暴力や虐待への対策、身体疾患と精神保健、災害精神保健、国際精神保健にまで広がっています。課題研究についても、幅広いテーマについて相談にのることができます。一例を以下にあげます。

- ・ 精神疾患および心の健康の社会的決定要因に関する疫学・国際比較研究
- ・ ワーク・エンゲイジメント、ワーク・ライフ・バランスおよびワーカホリズムの研究
- ・ ストレス対策の科学的効果評価、例えば ICT を活用した職場でのうつ病予防
- ・ 東日本大震災被災者のこころの健康づくり支援

3. 本分野の教育・研究活動の詳細

さらに詳細な情報は、HP をご覧ください。

<http://plaza.umin.ac.jp/heart/>

精神保健学分野の教育・研究活動に関心のある方は遠慮なくご連絡ください。

川上憲人教授 kawakami@m.u-tokyo.ac.jp

島津明人准教授 ashimazu@m.u-tokyo.ac.jp

橋本 英樹 教授

Hideki, Hashimoto

近藤 尚己 准教授

Naoki, Kondo

高木 大資 講師

Daisuke, Takagi



「まちと家族の健康」調査より

1.「保健社会行動学分野」とは？

2012 年に新たに始まった分野です。旧・老年社会科学分野と旧・健康教育・社会学分野の流れを汲みつつ、行動科学・心理学・社会学・経済学・疫学などの社会科学の理論や方法論を組み合わせ、「社会」構造や関係が健康関連行動や健康生成に影響するメカニズムについて明らかにすることが研究課題の中心です。また、その結果に基づいて主に社会格差による健康格差の解消に焦点をあて、福祉国家の実現に資するエビデンスベースの発信をこころがけています。

教室のスタッフは現在、社会格差と健康をテーマにしたパネル調査に複数取り組んでいます。社会保障による高齢者の健康影響を明らかにする「くらしと健康調査」(J-STAR)、若年成人とその子ども・配偶者を対象に社会経済的環境や地域社会の特性がひとの健康や発達に与える影響に注目した「まちと家族の健康調査」(J-SHINE)、高齢者の健康と社会関係資本の関係に注目した J-AGES、さらに政府統計個票を用いた社会保障政策(医療アクセスの公平性、所得格差など)の健康影響評価などに取り

組んでいます。

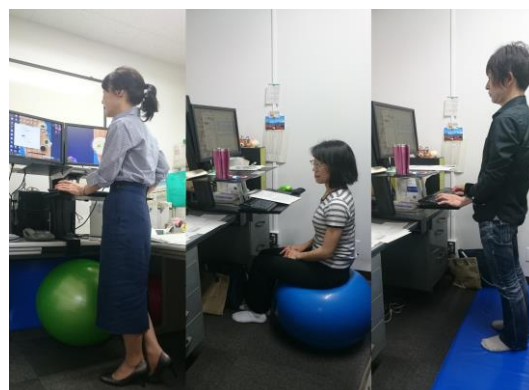
2.担当科目、課題研究テーマ

健康社会学、健康教育学、社会と健康 I およびIIを担当します。いずれも 2013 年度からバージョンアップした新しいシラバスで実施されます。健康社会学では、健康や病気、医療や生活習慣行動を、社会的文脈で批判的に読み解くために必要な理論的ベースを提供します。健康教育学ではさまざまなレベルの健康関連行動理論と、その実践応用例について講義とディスカッションを通じて紹介します。社会と健康Iでは、健康の社会的決定要因を取り上げ、その理論的ベースと実証研究を系統的に紹介します。IIでは受講者が自らリサーチした結果をもとにディスカッションを深め、健康を育む社会的取り組みの設計・評価に必要な実践的な思考を促します。

課題研究のテーマとしては学生のバックグラウンドや興味に応じて適宜相談に応じます。これまでも医療政策の実証的評価、所得格差が及ぼす子どもの健康影響、ヘルスリテラシーなど、量的調査、質的研究、文献研究いずれにも対応しています。

李 廷秀 准教授

LEE Jung-Su



座位時間を減らし活動的に過ごす工夫と実践を！

1.「健康増進科学」とは？

本分野は、人々の健康維持・増進に資するプログラムの科学的根拠を提示するための研究活動を基本としています。

生活習慣と疾病との関連、疾病予防・健康管理活動にかかわる調査・研究を通して、地域・職域における健康づくりの効果的方法・評価法の開発を行ない、広い意味での健康政策提言を目指しています。

具体的な研究活動としては、生活習慣の中で、身体活動・食生活についての評価方法及び健康への影響、またこれらの生活習慣の変容による短期的・長期的効果、さらには行動変容の長期継続に関わる個人的・環境的要因の評価方法等があげられます。

現在特に力を入れているのは、健康状態・健康関連行動に影響を及ぼす居住地域の物理的・社会的環境特性を明らかにすることです。健康日本 21(第二次)で目指す地域間健康格差の軽減に資するように、全国市区町村を対象とした調査研究を重点的にを行っています。

講義では、地域・職域の健康関連課題に関して考慮すべき事柄についてまず学習し、情報を収集し、分析・評価するための能力を高めることを目的としています。

さらに、評価に基づいて適切な健康問題解決プログラムを立案することについてグループディスカッション等を通じて学習していきます。

講義内容には、プログラムの企画・実施・評価方法、行動科学理論の基礎、問題解決のための集団アプローチと個別アプローチに関する各種モデルなどが含まれます。

2.担当科目、課題研究テーマ

健康増進科学を担当します。課題研究のテーマとして、下記のものに対応可能です。

その他、相談により他のテーマが可能な場合があります。まずは希望テーマについての話を聞かせてください！

- ・ 健康状態・健康関連行動の調査・評価方法の開発に関する研究
- ・ 健康関連行動の短期的・長期的変容が各種循環器系危険因子に及ぼす影響
- ・ 健康関連行動変容の短期的・長期的変容のための効果的な方法の開発
- ・ 健康状態・健康関連行動に影響を及ぼす地域の物理的・社会的環境に関する研究、など

健康増進科学分野の HP:

<http://www.ethps.m.u-tokyo.ac.jp/>

赤林 朗 教授 / 瀧本 禎之 准教授 /
中澤 栄輔 助教

Akabayashi, Akira / Takimoto, Yoshiyuki /
Nakazawa, Eisuke



1.「医療倫理学」とは？

医療倫理学分野では、医療と公衆衛生に関わる政策決定や臨床現場での倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的理論の研究と教育活動を行なっています。主な研究テーマとしては、医療倫理学基礎論、倫理理論（規範理論およびメタ倫理）、政治理論、医療資源の配分、公衆衛生倫理、脳科学研究の倫理、再生医療研究の倫理、研究倫理一般、インフォームド・コンセント、守秘義務、情報開示、脳死・臓器移植、遺伝子医療、安楽死や人工妊娠中絶の倫理、臨床倫理コンサルテーション、臨床倫理一般などがあります。授業では、全体講義や文献講読のほか、グループ・ディスカッションや演習などにも重点を置いています。

2. 担当科目、課題研究テーマ

医療倫理学Ⅰでは、公衆衛生領域の政策決定や臨床現場における倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的な考え方を学習します。医療倫理学総論・歴史、インフォームド・コンセント、研究倫理などを取り上げ、全体講義と少人数討論（ディベート）を行います。

医療倫理学Ⅱでは、「医療倫理学Ⅰ」で扱った内容をさらに深く修得します。発展として公衆衛生、資源配分、臨床倫理コンサル

テーション等に焦点を絞り、全体講義、少人数討論、重要文献の輪読と解説等を行います。

課題研究のトピックスとしては、意思決定、インフォームド・コンセント、患者の権利と人権、判断能力、プライバシーと守秘義務、医療者・患者関係、パターナリズム、事前指示（リビングウィル）、延命治療と治療中止、安楽死と自殺幫助、脳死と死の定義、医療資源の配分、生体臓器移植、ホスピス・緩和ケア、臨床倫理一般、研究倫理一般、パブリックヘルスエシックス（公衆衛生倫理）、ES/iPS 細胞研究、生殖補助技術、人工妊娠中絶、クローン、エンハンスメント、遺伝子診断、ヒト遺伝子解析研究、倫理委員会、HIV/AIDS、など様々です。

医療倫理学分野では、医療系（医・歯学、看護学、薬学など）、哲学・倫理学をはじめ、社会学、心理学、法学、教育学、宗教学、歴史学、理学、工学などさまざまな学問的背景や実務経験を持った学生さんを歓迎しています。また、研究でも学際的アプローチを試みています。

医療倫理学分野のウェブサイト：

<http://www.ethps.m.u-tokyo.ac.jp/>

<http://cbel.jp/>

北村聖 教授/大西弘高 講師/
孫大輔 講師
Kitamura, Kiyoshi / Onishi, Hirotaka /
Son, Daisuke



1.「保健医療人材育成学」とは？

医学教育国際研究センターは 2013 年春より医学系研究科の所属に改組され、2015 年度より公共健康医学専攻において授業や研究室配属を担当させていただくことになりました。1970 年代より WHO が保健の改善に向けて教育・人材育成を通じた取り組みを展開してきたことと歩調を合わせています。基盤には、教育学的理論、学習者評価学、心理測定学 (psychometrics)、カリキュラム論、プログラム評価論、組織管理学などがあり、諸外国では医療者教育などの専門職修士課程も増えています。

2.担当科目、課題研究テーマ

担当科目は、保健医療人材育成学(医師などの医療専門職を育てるシステムについて)、学習者評価学(医療専門職の評価により、どのようによりよい学習につなげるか)の2つです。講義と共に毎回グループディスカッションを行い、各自の経験を学問的基盤によって説明できるようになっていただくことが大きな目標となります。

大学や専門学校等における卒前教育、卒後から生涯にわたる継続教育といった公式な教育プログラムに加え、現場での学び

(on-the-job training)も重要です。トピックスとしては以下のような例が挙げられます。

- ・ 多職種連携教育
- ・ コミュニケーション教育
- ・ 臨床実習、臨床研修の改善
- ・ 新たな臨床能力評価の開発

研究においては、成績データなどによる量的アプローチも重要ですが、様々な形での質的アプローチや混合法も重視しています。近年、保健医療人材育成、医学教育、医療専門職教育といった領域における関連学会や専門誌は増えてきており、深めることができる内容は多岐にわたります。なお、北村教授、孫講師は内科学専攻、大西講師は国際保健学専攻の協力講座として、医学系研究科での指導も行っております。

3. 本分野の教育・研究活動の詳細

さらに詳細な情報は、HP をご覧ください。

<http://www.ircme.m.u-tokyo.ac.jp/>

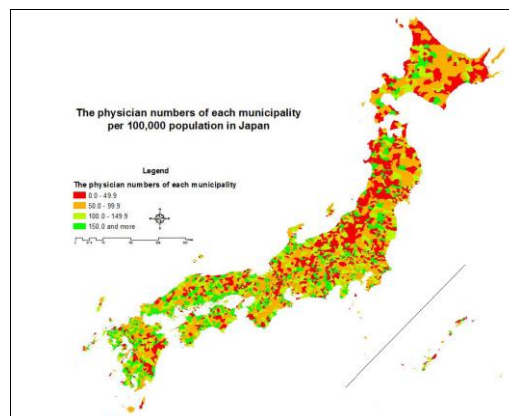
また保健医療人材育成分野の活動に関心のある方は、ご遠慮なくご連絡ください。

北村 聖教授 kitamura-ky@umin.net

大西弘高講師 onishi-hirotaka@umin.ac.jp

孫 大輔講師 sondtky@gmail.com

小林 廉毅 教授 / 豊川 智之 准教授
Kobayashi, Yasuki / Toyokawa, Satoshi



1.「健康医療政策学」とは？

健康医療政策学では、予防・医療・介護等の広義の健康・医療全般における様々な問題を制度・政策論及び経済学的な視点から実証分析し、必要に応じて政策提言につなげられるような研究活動を行っています。

具体的には、わが国の公的医療保険制度の下で、診療報酬点数が医療機関や処方せん薬局に与える経済的インセンティブの調査分析、医療費自己負担額の患者の受診行動への影響の調査分析など、医療の効率性及び公平性に関わる研究が挙げられます。また、医療機関から医療保険に提出される診療報酬請求明細書(レセプト)の情報を活用した種々の傷病の頻度推計、治療法や医療費の分析、医療の質の評価などの研究が含まれます。さらに、マクロ的視点の研究課題として、医療従事者の将来需給や医師の地理的・診療科別分布、医療アクセスの地域格差などについて研究しています。

さらに、喫緊の政策課題として、リプロダクティブヘルスに関わる知識・態度・行動の分析、産科医療補償制度に関連した脳性麻痺児の疫学研究、がん登録の整備と活用に

向けた研究なども行っています。

また、予防・健康管理に関わるテーマとして、職域の健康管理活動や生活習慣病予防などの疫学研究に取り組んでいます。

これらの研究においては、フィールド調査活動、他施設の共同研究、研究室での文献及び数量的分析、及びそれらの有機的関係を重視しています。

以上に述べたような研究を通して、健康・医療分野における科学的な政策形成に資することが当研究室の最終的な目標です。

2.担当科目、課題研究テーマ

授業科目として、健康医療政策学、健康危機管理学、保健行政・健康危機管理学実習を担当しています。

課題研究のテーマとしては、前項で挙げた研究内容に関連したものが可能です。

なお、当研究室の教員は、大学院医学博士課程(社会医学専攻)、並びに医学部医学科の公衆衛生学を兼任しています。

研究室のホームページ

<http://publichealth.m.u-tokyo.ac.jp/>

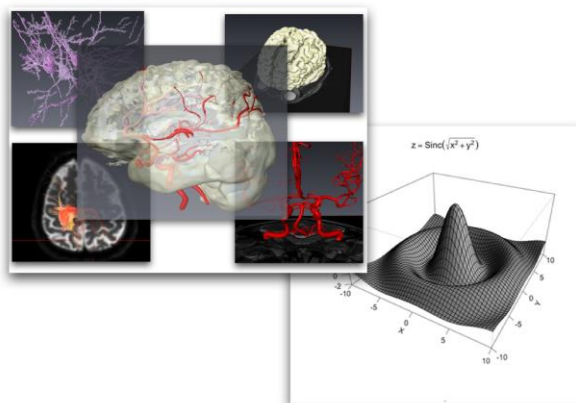
小山 博史 教授

Oyama, Hiroshi



斎藤 季 助教

Saito, Toki



1.「臨床情報工学」とは？

医療イノベーション分野の大きな柱の1つに ICT の医療や保健・介護応用があり、それらを実現できる専門の技術者や研究者の育成が急務とされています。このような専門職に必要な技能とは、医療や医学と情報工学のダブルメジャーに関する知識と技術です。臨床情報工学では、このダブルメジャーを実現するために、個人を対象とする臨床医学や健康科学のみならず集団を対象とする公衆衛生臨床活動への情報工学技術の応用に関する研究と教育を行っています。

特に、専門的知識をわかりやすく一般に表現するためのコンピュータグラフィックス技術を用いたアプリケーション開発やビッグデータを用いる際に必須となる機械学習や人工知能技術の医療応用に関する知識と技術を有する人材の育成に力を入れています。

2.担当科目、課題研究テーマ

公共健康情報学(講義・実習)を担当します。

課題研究のテーマとしては以下のものが挙げられますが、学生のバックグラウンドに応じて下記のテーマ以外にも可能な場合もありますので相談してください。

1) データの多次元可視化に関する研究:

- ・ 融合3次元画像を用いた生体シミュレーションに関する研究開発
- ・ ロボット手術支援用ナビゲーションシステムの研究開発

2) 機械学習・人工知能の医療応用に関する研究:

- ・ 機械学習を用いた予測モデルの開発
- ・ ビッグデータからのデータサンプリングに関する研究

3) 医療イノベーションに関する研究

低侵襲手術ロボット用ナビゲーション等、医工連携に基づく医療機器の効率的開発に関する研究

※ゼミでは基礎的なプログラミングや R を用いた情報処理、人工知能の基礎等を行っていますので最初プログラムを書けなくても研究可能です。

大江 和彦 教授

Ohe, Kazuhiko

脇 嘉代 特任准教授

Waki, Kayo

田中 勝弥 講師

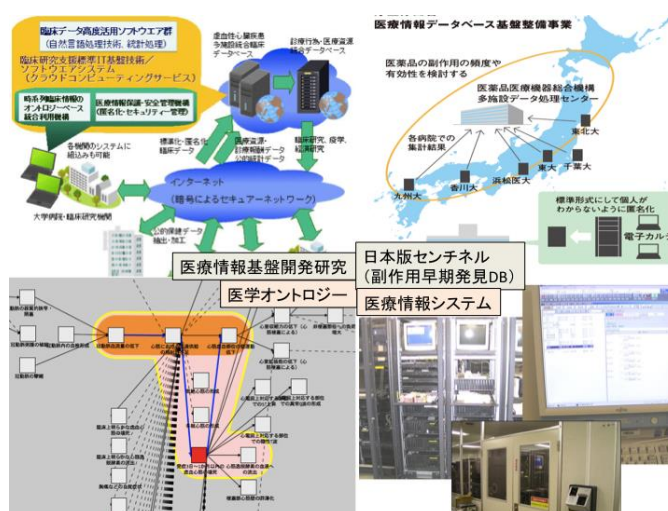
Tanaka, Katsuta

新 秀直 講師

Atarashi, Hidenao

今井 健 講師

Imai, Takashi



会連携講座とも連携しています。

1.「医療情報システム学」とは？

医療を科学的に分析し、医療政策立案や医療改革に成果を生かすには、まず医療活動で生成されるあらゆる情報を電子データとして蓄積し解析できる形にすることが必要です。医療情報システム学では、医療における情報システムの基盤技術、役割、組織論、情報管理のあり方、情報倫理、標準化など医療におけるICT(Information and Communication Technology)化全般について、情報システムや電子カルテシステムの設計・開発・導入における諸問題の実践的教育・研究を行っています。またICT化推進に必要な政策・行政面での課題解決方法についても検討しています。これらにより、情報技術を医療に応用できる高度専門的人材や、医療情報データベースの構築と解析ができる人材を育成しています。

2.担当科目、課題研究テーマ

医療情報システム学(講義・実習)を担当します。また、関係の深い臨床情報工学分野とも連携している他、健康空間情報学社

課題研究のテーマとしては以下のものが挙げられますが、学生のバックグラウンドに応じて研究に参画して研究を行います。

- ・ 電子カルテシステム(EHR)における情報表現の標準化の研究
 - ・ 臨床医学オントロジーの構築と活用に関する研究
 - ・ 医療情報システムのデータ管理や医療データベースの活用に関する研究
 - ・ 診断支援や医療意思決定支援のための医学知識処理システム応用研究
 - ・ 人工知能の医療への応用
 - ・ モバイル医療、特に生活習慣病管理
- 研究室では、特に臨床医学における知識や概念のコンピュータ上での記述モデルや表現、その操作に関する研究、診療意思決定支援システムの開発研究、新しい医療情報システム、モバイル医療、ゲノムデータベースの開発に力をいれています。

詳しくは

<http://www.m.u-tokyo.ac.jp/medinfo/>をご覧ください。

岩瀬 博太郎 教授 / 榎野 陽介 講師

Iwase, Hirotaro / Makino, Yohsuke



1.法医学とは？

法医学は法が適正に執行されるために医学的に何ができるかを考え、実践する学問であり、国民の権利を守る医学であるといっていよう。古典的には、解剖及び薬毒物検査等の諸検査を通して、死因を極力正確に判定することで、犯罪見逃しの防止、事故再発の抑止に資し、それによって国民の権利維持を行ってきた。近年においては、死因究明のみならず、虐待を受けた小児等の診察を行うなど生体への関与も法医学の行うべき活動とされるようになってきている。

2.担当科目、課題研究テーマ

法医学・医事法の講義・演習を担当している。

当教室では、千葉大学と連携し、死因究明に関する業務や被虐待時の生体診察等の業務を行っている。死因究明に関しては、旧来から行われてきた、解剖及び組織学的検索のみでなく、危険ドラッグ等も含む薬毒物検査や、死後CT検査等も行っている。研究面に関しては、LC-MS等を用いた薬毒物検査法の開発に関する研究や、CT検査を用いた死因診断法の研究、身元特定方法の開発に関する研究などを行っている。また、死因特定において得られる様々な検査データについてのデータベースを構築し、そ

れを利用した研究も行っている。

課題研究のテーマについては、こうした当教室で実施している業務及び研究をベースに、学生の要望を聞きながら設定する予定である。

児玉 安司 特任教授

小川 祥子特任助教

Kodama, Yasushi

/ Ogawa, Shoko



1.「医療安全管理学講座」とは？

本講座は、主として次の3点について研究・教育を行っています。

- (1) 有害事象の未然防止活動
- (2) 発生した有害事象への対応
- (3) 患者からの苦情相談への対応

(1)については、わが国においても、研究・教育がなされるようになりました。しかし、(2)や(3)については、ほとんど研究・教育は行われていません。そこで当講座は、上記の3つのテーマについて総合的に研究を進めるとともに、教育を通じてその成果を広く医療現場に還元することによって、安全・安心な医療の確保に寄与したいと考えています。

なお、当講座は、東京大学医学部附属病院の各部門(医療安全対策センター、患者相談・臨床倫理センターなど)等とも連携して研究・教育を進め、医療安全管理に関して、現実問題に対応しうる理論的・実践的モデルを模索することに努めています。

特に、地域において住民からの医療に関する苦情や相談に対応する窓口である医療安全支援センター(各地方自治体の保健所等に設けられています)の機能に着目し、その支援等を行っております。

なお、当講座の教員が、現在、関係して

いるプロジェクトとして、以下のようなものがあります(一例)。

- ・医療安全支援センター総合支援事業(厚生労働省補助事業)
- ・医療安全支援センターの業務及び運営の改善のための研究(厚生労働科学研究)
- ・米国における医療安全及び医師再教育制度に関する研究(ファイザーヘルスリサーチ振興財団 国際共同研究)

2.担当科目、課題研究テーマ

(担当科目)

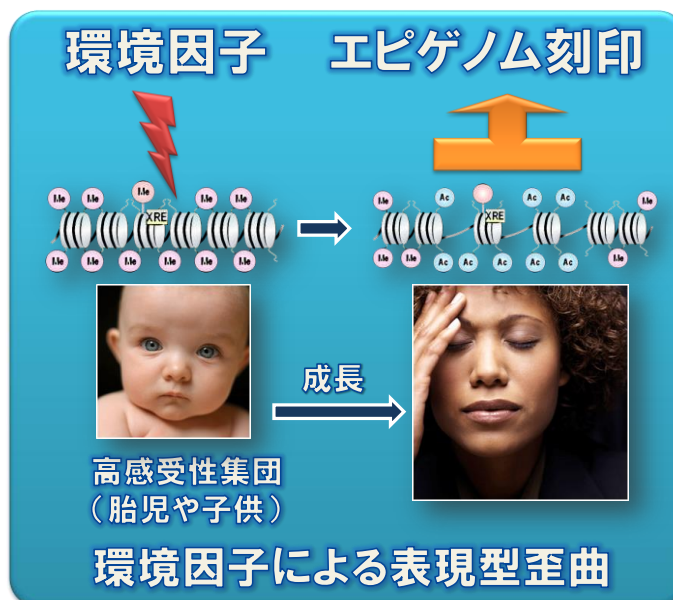
(1) 医療安全管理学講義

医療安全管理とは、先に示した3つの活動です。本講義では、これらに関連する重要な問題について基礎知識を習得することを目的として、解説およびスモール・グループ・ディスカッションを行います。

(2) 医療安全管理学実習

本実習では、受講者が、東大病院及び他大学の関連部門において、聞き取り調査や観察実習をすることを通じて、医療現場の状況と医療安全管理に関する具体的な方法を学びます。

Ohsako Seijichiroh



1.「健康環境医工学部門」とは？

環境・食品には、様々な有害な化学物質が含まれており、地球規模で汚染が広がっています。疫学的研究から、子ども達の健康がむしばまれているとの報告が集積しています。「環境毒性学」はこのような環境有害化学物質の生体への影響を研究する学問です。この部門では、胎児や新生児に与える影響とそのメカニズムを解明すること、また、その検出・診断技術を開発すること、これらの知見を安全基準に反映させる方策を検討することを目指しています。また、環境毒性学の中でも特に注目を集めているDNAメチル化変化などのエピジェネティクス毒性学に取り組んでいます。

2.担当科目、課題研究テーマ

環境健康医学(必修)を担当します。ヒトは、大気、水、食品などの環境から様々な有害な化学物質を体内に取り込んでいます。

これら有害物質による生体影響の同定、量
反応関係、有害影響が現れる病態発生のメ
カニズムとその影響を初期に診断するた
めのバイオマーカー、環境防御対策などにつ
いての基本的な知識と考え方の講義を担当
します。

課題研究テーマ：

- (1) 環境有害化学物質（ダイオキシン類、内分泌かく乱化学物質、重金属等）の毒性発現メカニズムの解明
- (2) 環境因子によるヒト疾患に関わるエピジェネティックな変化（特に高感受性集団）の分子疫学的調査と作用メカニズム解明
- (3) 多能性幹細胞を利用した化学物質の発達期影響に関するリスク評価技術開発

教育課程等の概要

(H27.5.1 現在)

教育課程等の概要									
(医学系研究科公共健康医学専攻)									
科目区分	授業科目の名称	単位数		授業形態			専任教員等の配置		
		必修	選択	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師
疫学保健学系科目	疫学研究と実践[必修*1]	2		○			1		
	予防保健の実践と評価		2	○			1		
	医学データの統計解析	2		○			1		
	医学統計学演習		2		○			1	
	医学研究のデザイン[必修*1]	2		○			1		
	臨床疫学		2	○			1		
	臨床疫学・経済学演習		2		○		1		
	保健医療経済学		2	○			1		
	医療コミュニケーション学		2	○			1	1	
	医療コミュニケーション学演習		2		○		1	1	
	医療技術評価学演習		1		○		1		
	医療経営学演習		2		○		1		
	臨床医学概論		1	○			1		
	医学研究とCDISC標準		1	○			1	1	
	小計(14科目)	6	19	-			4	2	
行動社会医学系科目	精神保健学Ⅰ[必修*2]	2		○			1	1	
	精神保健学Ⅱ		2	○			1	1	
	健康教育学[必修*2]	2		○			1		
	健康社会学		2	○			1		
	健康増進科学		2	○				1	
	医療倫理学Ⅰ[必修*3]	2		○			1	1	
	医療倫理学Ⅱ		2	○			1	1	
	社会と健康Ⅰ[必修*3]	2		○				1	
	社会と健康Ⅱ		2	○				1	
	産業保健の理論と実践		2	○			1		
	保健医療人材育成学		2	○			1(1)		2(2)
	学習者評価学		2	○			1(1)		2(2)
	小計(12科目)	8	16	-			4(1)	4	2(2)
医療科学系科目	健康医療政策学[必修*4]	2		○			1	1	
	医療情報システム学[必修*4]	2		○			1		
	医療情報システム学実習		1			○	1		
	法医学・医事法学[必修*3]	2		○			1		1
	法医学・医事法学演習		2		○		1		1
	医療安全管理学		1	○			1(1)		
	医療安全管理学実習		0.5			○	1(1)		
	健康危機管理学		1	○			1		
	保健行政・健康危機管理学実習		2			○	1		
	環境健康医学	1		○				1(1)	
	公共健康情報学		2	○			1		
	公共健康情報学実習		1			○	1		
	小計(12科目)	7	10.5	-			5(1)	2(1)	1
共通科目	インターンシップ		2			○	1		
	公共健康医学特論		2	○			10	6(1)	
	課題研究	6			○		14(3)	8(1)	1
	小計(3科目)	6	4	-			14(3)	8(1)	1
合計(36科目)		27	49.5	-			14(3)	8(1)	1

※ () 内は兼任教員等を示し、内数である

学位又は称号	公衆衛生学修士(専門職)	学位又は学科の分野	公衆衛生学
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
(1) 標準修業年限 2 年(2 年コース)の場合 必修科目及び選択科目を 30 単位以上履修することとし、必修科目は 6 科目 11 単位及び課題研究 6 単位を履修する。 (2) 標準修業年限 1 年(1 年コース)の場合 1 年間で必修科目及び選択科目を 30 単位以上履修することとし、必修科目は 6 科目 11 単位を履修し、課題研究は選択科目とする。 ※(1)(2)ともに必修科目のうち、*印のあるものについては、同じ番号を付された授業科目から 1 科目履修すればよい。		1 学年の学期区分	4 期
		1 学期の授業時間	13 週
		1 時限の授業時間	105 分

専門職学位課程学位授与方針
公共健康医学専攻専門職大学院では、①人間集団の健康を対象にした分析手法を身につけ、②保健医療に関わる社会制度を体系的に理解し、③政策立案・マネジメント能力に優れた、④パブリックヘルス・マインドを持った高度専門職業人の育成をするため、教育課程の編成・実施方針に沿った所定の単位を取得した学生に公共健康医学修士(専門職)の学位を授与する。
専門職学位課程教育課程の編成・実施方針
公共健康医学専攻専門職大学院では①人間集団の健康を対象にした分析方法を身につけ、②保健医療に関わる社会制度を体系的に理解し、③政策立案・マネジメント能力に優れた、④パブリックヘルス・マインドを持った高度専門職業人の育成をする。公共健康医学専攻(専門職修士)課程では、上記目的を達成するために以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。 ・ カリキュラムは、疫学・数量分析を対象にした科目群、保健医療領域の行動科学・社会科学に関連した科目群、保健医療及び臨床現場に関わる政策・マネジメントを対象にした科目群により構成され、公衆衛生の大学院教育のグローバルスタンダードに相当する科目は必修とする ・ 1 年制課程については選抜の要件として実務経験や職業倫理生を考慮し、2 年制課程については、指導教員のもとで「課題研究」に取り組むことで、公衆衛生の実践活動や研究活動に直に接する機会等を得て、国民や地域住民の健康維持・増進に関わる専門家としての自覚を養う ・ 理論と実践の双方に配慮し、講義・演習など多様な教育手法を取り入れたカリキュラムを構成する ・ 公衆衛生の今日的課題の性質を鑑み、グローバルな視野を育むテーマを取り上げる

授業科目の一覧

※ 疫学保健学系・行動社会医学系・医療科学系・共通の4つの科目区分があります。

□ 疫学保健学系

授業科目名の名称	講義等の内容
疫学研究と実践	疫学研究方法論の基礎を講義すると同時に、実践する際の問題点とその克服について、事例研究（ケーススタディ）を通じて学ぶ。主な内容は以下の通り：疫学的思考、因果関係の立証、疾病発生の把握と信頼性の確保、疫学研究デザイン入門、バイアスと誤差的パラツキ、バイアスとくに交絡の制御、統計解析の役割、研究倫理と同意・個人情報保護、遺伝疫学、研究成果のフィードバックと予防保健など。
予防保健の実践と評価	職域・地域などをフィールドとして、健診結果や疫学研究の成果を成員にフィードバックすることにより予防保健につなげる実践活動について、主に事例研究（ケーススタディ）を通じて学ぶ。主な内容は以下の通り：健康目標の設定とその評価、実施組織の構築と役割・費用分担、成員の合意形成と情報のフィードバック・コミュニケーション、プライバシーと個人情報保護、職域保健活動の事例（産業医の役割）、地域保健活動の事例（保健師の役割）など。
医学データの統計解析	医学研究のデザイン、統計的仮説検定と信頼区間、サンプルサイズ設計、分割表データの解析、帰帰と相関、層別解析、モデルに基づく解析、生存時間解析、多変量解析諸手法などについて教え、医学データの統計解析に必要な基礎知識、ならびに応用能力を身に付けさせる。
医学統計学演習	「医学データの統計解析」で講義された主要な統計手法について、実例を用いて SAS・S（あるいは R）で演習を行う。また仮の医学研究（疫学研究か臨床試験研究）を設定し、グループ実習により統計解析計画書の作成演習を行い、その成果に対して討論（ディベート）を通じて理解を深める。
医学研究のデザイン	疫学研究・臨床試験のデザインと実際の研究運営についての講義とともに、事例研究（ケーススタディ）を行う。主要雑誌に掲載される論文を理解するための基礎知識を習得し、共同作業でプロトコルを策定できる能力・研究事務局に参画するために必要とされる能力を磨くことを目指す。主な内容は以下の通り：研究デザインの分類と特徴、測定の標準化、疫学研究のデザイン（バイアスの制御と症例数決定など）、臨床試験の方法論（ランダム化と割り付け、エンドポイントの設定、中間解析、統計解析の原則、症例数決定、ICH ガイドラインなど）、標本調査入門、プロトコルの作成、品質管理と品質保証、データマネージメント、論文作成と CONSORT 宣言、研究費用の算定と研究の運営など。
臨床疫学	臨床疫学研究のテーマは、日常臨床の中に潜んでいる。Clinical practice から research question を紡ぎ出し、研究仮説を立て、適切なデザインを構築し、利用可能なデータから意味のある分析結果を出し、臨床的に妥当な解釈を行う。これら一連のプロセスを遂行するために不可欠となる臨床疫学の理論および実践的な方法論を身につける。
臨床疫学・経済学演習	学生各人が、具体的な臨床的関心あるいは公衆衛生学的関心に基づき、文献検索と仮説構築を行い、研究の proposal writing（研究の背景と目的の提示、データ収集の定式化並びに分析計画、研究費の予算書作成など）ができる実践的なスキルを身につける。さらに医学英語論文の書き方の基本を学ぶ。
保健医療経済学	医療経済学の基礎知識を身に着けるとともに、実証的な医療経済学分析の方法論についての基本を学ぶ。さらに医療経済学の考え方に沿って、現実の医療経済政策における個別の課題について考察する力をつける。
医療コミュニケーション学	臨床現場における対人コミュニケーションからメディアによるコミュニケーションまで、医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）の領域を概観し、その基礎的な理論と実践を体系的に学習する。ヘルスコミュニケーションにおける理論体系、実践的方法論、コミュニケーションの評価・分析方法等を取り扱うとともに、ヘルスコミュニケーションの具体的な実践例の紹介と分析も行う。

医療コミュニケーション学演習	医療コミュニケーション(ヘルスコミュニケーション)の実践に必要な演習を行うことによって、「医療コミュニケーション学」の講義で学んだ様々な理論や実践方法論に対する理解を深めるとともに、具体的な医療コミュニケーションの場(医療機関、官公庁、教育機関、研究機関、患者支援組織、マスコミ等)でこれらを生かすことができるようにすることを目的とする。
医療技術評価学演習	医療経済評価及びアウトカム評価の実践能力を身に付けるために、具体的な医療技術や薬剤を事例として取り上げ、グループ毎に評価研究のステップに従って、課題の設定、決定樹やマルコフモデルの作成、臨床結果及びコスト情報の収集、費用対効果の算出、感度分析などの一連の経済評価手法を学ぶ。
医療経営学演習	臨床経験3年以上の医療従事者を中心に、病院経営の基本的姿勢や考え方について初歩的理解を得ることを到達目標とする。コア概念(財務・管理会計、組織論・人材管理、戦略論、リスクマネジメント)について基本知識を系統講義で確認した後、ケースシナリオを用いたグループディスカッションを通じ、それらを実践知化する。
臨床医学概論	医学部医学科の初歩レベルの臨床医学に関する知識のエッセンスを学ぶ。系統講義を通して、解剖・生理、診断・治療の要点を学ぶ。
医学研究とCDISC 標準	本講義では、CDISC (Clinical Data Interchange Consortium) 標準についての概要を解説する。CDISC 標準は、日本、米国、EUにおいて、規制当局への新薬治験データの申請のデータ標準として採用されることが決まっており、治験以外の一般の医学研究のデータ収集、データ交換、アーカイビング等のためにも世界中で幅広く活用されると予想されている。

□ 行動社会医学系

授業科目名の名称	講義等の内容
精神保健学Ⅰ	前半では、わが国と世界の精神疾患の疫学、精神健康評価の方法論、科学的根拠に基づいた地域、職場、学校における精神保健の第一次、第二次、第三次予防の方法論について学ぶ。後半は、科学的根拠の精神保健の実践への応用について事例に基づいた双方向講義を行い、最後にグループワークにより新しい精神保健対策を立案する小演習を行う。
精神保健学Ⅱ	職場のメンタルヘルスについて、その歴史と現状、関連する法規、ガイドラインおよび制度、職業性ストレスの基礎理論、科学的根拠に基づく有効な第一次、第二次、第三次予防の方法、計画立案およびプログラムの評価方法について学ぶ。事業場の特性を踏まえた対策立案について事例研究(ケーススタディ)を行い、具体的な進め方について討論(ディベート)する。
健康教育学	本講義の前半では、健康関連行動に関するミクロならびにマクロレベルの理論を系統的に紹介し、これらの理論の背景となる人間像や社会観を批判的に読み解くとともに、それぞれの長所・限界点を議論していく。後半は地域・職場・学校などの具体的な場において展開する「健康づくり」活動についてディスカッションを通じて理解を深めるとともに、理論と実践の溝を埋める作業を促す。
健康社会学	医学的な視座を相対化し、健康・疾病・医療・公衆衛生が社会においていかなる意義・役割・機能を有しているのかを再検討するための素地として、社会学の諸理論のうち医学・保健に関するトピックを取り上げる。
健康増進科学	地域・職域の健康問題に関する社会的、物理的情報を収集・分析・評価する能力を事例研究によって高め、その結果から適切な健康問題解決プログラムを立案する能力を少人数討論の中で養う。具体的には、疾病予防・行動変容プログラムの企画・実施・評価、行動科学理論の基礎、集団アプローチと個別アプローチ、支援環境に関する各種モデルなどを含む。
医療倫理学Ⅰ	公衆衛生領域の政策決定や臨床現場における倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的な考え方を教える。医療倫理学総論・歴史、インフォームドコンセント、研究倫理などを取り上げ、全体講義と少人数討論(ディベート)を行う。
医療倫理学Ⅱ	「医療倫理学Ⅰ」で扱った内容をさらに深く教授する。発展として公衆衛生、資源配分、臨床倫理コンサルテーション等に焦点を絞り、全体講義、少人数討論を行う。

社会と健康Ⅰ	教育・経済状況(貧困)・社会的孤立・住環境・就労環境・社会的ネットワークなど、健康に影響を与える社会的な要因(Social Determinants of Health: SDH)について、その理論的背景・実証研究・現時点の実証および実践上の課題について鳥瞰する。
社会と健康Ⅱ	「社会と健康Ⅰ」で学んだ知識をベースに、社会環境にアプローチする健康格差対策の進め方について実践的に学ぶ。既存の実践理論モデル、介入、政策の事例を紹介し、その利点、欠点を考察する。初回講義で各人にテーマを割り振り、順次発表してもらい、ディスカッションする。
産業保健の理論と実践	産業保健について最近の動向と国際的視点についてのアップデートな情報を教授すると同時に、事例分析や演習を通じて産業保健を職場で遂行するための実践的技術の基礎を習得する。
保健医療人材育成学	保健・医療分野の人材育成(human resource development for health, health professional education)について、教育や学習に関連した理論に基づいて、全体講義と少人数講義を通して学ぶ。
学習者評価学	保健・医療分野の人材育成において、資格認定や学習内容の修得と関連する学習者評価(learner assessment)に関して、統計学や心理測定学(psychometrics)の理論を含めて学ぶ。

□ 医療科学系

授業科目名の名称	講義等の内容
健康医療政策学	疾病予防対策、医療保険制度、医療提供体制、医療評価など、種々の健康・医療に関わる制度・政策の背景並びに立案・実施、報道、社会への影響について、様々なステークホルダーの立場、関連の法令、費用負担のあり方などを学習するとともに、事例(ケース)を通じて実際に理解する。
医療情報システム学	医療におけるデータ管理、データのコード化と分類、情報技術の基礎と標準化、データ処理技法、医療情報システムとネットワーク技術の基礎と運用、医療における情報保護やセキュリティー、医療情報システムの管理などについて講義する。
医療情報システム学実習	医療におけるデータ管理とデータのコード化手法、データ処理技法、医療情報システムの設計、管理手法を実際の病院情報システムをフィールドとして実習する。
法医学・医事法学	異状死、特に医療関連死の事例・判例につき、法的背景、社会的背景を中心に講義・討論形式で進める。実際の解剖・検案・鑑定に参加して学ぶ他、法廷見学・討論をする。事例・判例セミナーを定期的に開催する。
法医学・医事法学演習	死因究明の法・制度に関する日本や諸外国の問題点を、遺族・医師などに対する意識調査、文献調査、現地調査(フィールドワーク)などを通じて分析し、新しい法・制度を提案する演習を行う。また、担当教員が関わる厚生労働省「医療関連死の死因調査に関するモデル事業」の実務を通じて、死因調査実務担当者(看護師、医師、コーディネーター)・教育担当者を想定した実習を行う。
医療安全管理学	医療現場におけるヒヤリハットや医療事故などに関わるリスク要因の探索、医療安全促進に向けたシステム作り、医療事故に対する対応や過去の訴訟事例などについて、実践的な討論(ディベート)などを通して、医療安全管理の実践を身に付ける。
医療安全管理学実習	医療現場における実際のヒヤリハット事例や医療安全促進に向けたシステム作り、医療事故に対する対応などについて、実際の医療機関で資料を収集・分析することにより、実践的な分析能力、対策立案能力を身に付ける。
健康危機管理学	新興・再興感染症等のアウトブレイクや大規模災害など様々な健康危機の事例、健康危機突発事の原因同定と対応策、平時におけるサーベイランスについて学習するとともに、事例を用いて健康危機管理に必要な疫学調査法の基本を習得する。
保健行政・健康危機管理学実習	原因不明の健康危機事例やその他の保健行政に関して、各種疫学指標の算出、原因に関する仮説の構築、現実的な対応策の立案及びその実施と評価、対策実施に関わる組織・態勢のマネジメントなどについて、保健行政の現場に身をおき、保健所長などの各種専門職の役割を理解しながら、健康危機管理やその他の保健行政の基本的対応を身に付ける。

環境健康医学	ヒトは、大気、水、食品などの環境から様々な有害な化学物質を体内に取り込んでいる。これら有害物質による生体影響の同定、量反応関係、有害影響が現れる病態発生のメカニズムとその影響を初期に診断するためのバイオマーカー、環境防御対策などについての基本的な知識と考え方を身に付ける。
公共健康情報学	公共健康医学分野における情報処理の基礎を習得する。特に地理情報システム、感染症サーベイランスシステム、疾患登録システムと関連する情報処理技術に重点を置く。
公共健康情報学 実習	Rを用いた地理情報システムを例に公共健康情報処理に必要な情報処理技術を身に付ける。
□ 共通	
授業科目名 の名称	講義等の内容
インターンシップ	公衆衛生の現場（公衆衛生関連の試験研究機関・シンクタンク・非営利団体等、医療機関）などに身を置いて、実務の中から、自ら取り組むべき課題を見つけ、分析を行い、対策を立案する能力を身に付ける。
公共健康医学特論	公共健康医学専攻の全13分野から、それぞれ公共政策・活動との接点となる具体的取り組み事例や課題をテーマとして取り上げ、公共の厚生に資する健康科学のあり方と、その研究・実践上の克服すべき課題について、理解を深める。
課題研究	指導教員のもとで、特定の研究課題について現地調査（フィールドワーク）、資料収集、分析・統計解析、論文作成などの実践を通して、高度な問題解決能力を身に付ける。

2011 年度～2015 年度受験・合格者状況

2010 年 8 月実施入試の結果

受験者数		83(4)
合格者数		33(2)
	内訳:	
	1 年コース	12(0)うち医師11(0)
	2年コース	21(2)うち医師 3(0)
2011 年度合格者合計		33(2)
2011 年度入学者合計		31(2)

2011 年 8 月実施入試の結果

受験者数		84(5)
合格者数		32(2)
	内訳:	
	1 年コース	13(0)うち医師13(0)
	2年コース	19(2)うち医師 2(0)
2012 年度合格者合計		32(2)
2012 年度入学者合計		30(2)

2012 年 8 月実施入試の結果

受験者数		103(1)
合格者数		35(0)
	内訳:	
	1 年コース	13(0)うち医師12(0)
	2年コース	22(0)うち医師 6(0)
2013 年度合格者合計		35(0)
2013 年度入学者合計		32(0)

2013 年 8 月実施入試の結果

受験者数		102(5)
合格者数		33(1)
	内訳:	
	1 年コース	12(0)うち医師10(0)
	2年コース	21(1)うち医師 2(0)
2014 年度合格者合計		33(1)
2014 年度入学者合計		30(0)

2014 年 8 月実施入試の結果			
受験者数			91(8)
合格者数			32(3)
	内訳:	1 年コース	12(0)うち医師11(0)
		2年コース	20(3)うち医師 7(1)
2015 年度合格者合計			32(3)
2015 年度入学者合計			29(3)

※ カッコ()内は外国人の内数

Faculty members (as of July 1, 2015)

Division	Department	Professor	Associate professor	Lecturer
Epidemiology and Health Sciences	Biostatistics	Yutaka Matsuyama	Koji Oba	
	Social and Preventive Epidemiology	Satoshi Sasaki		
	Clinical Epidemiology and Health Economics	Hideo Yasunaga		
	Health Communication	Takahiro Kiuchi	Hirono Ishikawa	
	Cancer Epidemiology	Manami Inoue*		
Behavior Health Sciences	Mental Health	Norito Kawakami	Akihito Shimazu	
	Health Education and Health Sociology		Naoki Kondo	
	Health and Social Behavior	Hideki Hashimoto		Daisuke Takagi
	Health Promotion Science		Jung Su Lee	
	Biomedical Ethics	Akira Akabayashi	Yoshiyuki Takimoto	Yuzaburo Uetake*
	Department of Human Resource Development for Health	Kiyoshi Kitamura*		Hiroataka Onishi* Daisuke Son*
Health Services Sciences	Health Policy	Yasuki Kobayashi	Satoshi Toyokawa	
	Clinical Information Engineering	Hiroshi Oyama		
	Healthcare Informatics	Kazuhiko Ohe	Kayo Waki*	Hidenao Atarashi* Takeshi Imai* Katsuya Tanaka*
	Forensic Medicine And Medical Law	Hirotarō Iwase		Yohsuke Makino
	Public Health Science		Takashi Fukuda*	
	Patient Safety and Risk Management	Yasushi Kodama*		
	Environmental Health Sciences		Seiichiroh Ohsako*	

* Adjunct faculty members.

Outline of the curriculum

Subject	Description	Credits
Epidemiology Research & Practice	In addition to lectures on basic epidemiological research methodologies, students learn through case studies of the problems which arise when putting these methodologies into practice, as well as ways to overcome them. The core themes of this subject are: epidemiological thought; demonstrating causative relationships; understanding disease onset and ensuring reliability; introduction to epidemiological research design; bias and error variance; controlling bias, particularly confounding; role of statistical analysis; research ethics & consent/protection of privacy; genetic epidemiology; research outcome feedback; and preventive medicine etc.	2
Preventive Health Practice & Assessment	Students learn primarily through case studies about practical initiatives linked to occupational & community preventive health based on member feedback of medical checkup results and epidemiology research outcomes. The core themes of this subject are: setting and evaluation of health objectives; development of implementing organizations & allocation of roles/costs; obtaining member consent & information feedback/communication; privacy & protection of personal information; occupational health initiative case studies (role of occupational health physicians); community health initiative case studies (role of public health nurses) etc.	2
Statistical Analysis of Medical Data	By learning about medical research design, statistical hypothesis testing & confidence intervals, sample size design, contingency table data analysis, regression & correlation, stratified analysis, model-based analysis, survival analysis, and multivariate analysis techniques, students acquire the basic knowledge and practical abilities required for statistical analysis of medical data.	2
Medical Statistics Exercise	Students learn about the main statistical methods covered in 'Statistical Analysis of Medical Data' using actual cases with SAS/S (or R) statistical software. Students also create hypothetical medical research (epidemiology or clinical study research) and formulate a statistical analysis plan through a group exercise, then improve their understanding of the results through debate.	2
Medical Research Design	This subject comprises lectures on epidemiological research & clinical trial design and actual research management, as well as case studies. The aim is to equip students with the basic knowledge required to understand studies published in key journals, and to hone their protocol drafting skills as well as the ability to participate in a research office through teamwork. The core themes of this subject are: research design types & characteristics; standardization of measurements; epidemiological research design (bias control & sample size determination etc.); clinical trial methodology (randomization & assignment, endpoint determination, interim analysis, statistical analysis principles, sample size determination, ICH guidelines etc.); introduction to sample surveys; protocol preparation; quality control & quality assurance; data management; drafting of academic papers & CONSORT statements; research cost estimation and research management etc.	2
Clinical Epidemiology	Subjects of clinical epidemiological studies exist in clinical practice. Researchers must find out research questions in clinical practice, make a study hypothesis and an appropriate study design, make statistical analyses with available data and make clinically valid interpretation of the results. The course provides theories and practical skills of clinical epidemiology that are essential for implementing clinical studies.	2
Clinical Epidemiology Exercise	The course provides hands-on training to help students write their research protocols for fund application through lectures and tutorials. The course also provides how to write medical literature.	2
Healthcare Economics	The course provides basic knowledge about health economics and basic methods for health economic analyses. Through lectures and group debates, students learn how to apply theories of health economics to actual health policy issues.	2
Health Communication	The course overviews major areas and topics of health communication including interpersonal communication in healthcare settings to media communication, and introduces current research, practice and education in health communication. Students learn basic theories and methodologies as well as methods of analysis and evaluation in health communication.	2
Seminar in Health Communication	Students practice skills for health communication to learn practical applications of the theories and methodologies introduced in Health Communication lecture, and to learn how to make effective health communication in various health settings including healthcare institutions, government, academic and educational institutions, patient organizations, and mass media.	2

Subject	Description	Credits
Seminar in Healthcare Technology Assessment	This three-day intensive seminar will provide hands-on training to conduct health technology assessment, e.g. measurement of direct and indirect cost, benefit as is expressed in quality adjusted life years and utility, and modeling decision trees, and calculating incremental cost-effectiveness ratio with sensitivity analysis.	1
Seminar in Healthcare Organization Management	The course is composed of lectures on accounting, human resource management, risk control, and strategic building, complemented by case method using a case scenario of actual hospital management. Students with clinical experience >3 years will be accepted.	2
Introduction to Clinical Medicine	The course will provide lectures on basic knowledge about clinical medicine including anatomy, physiology, diagnosis and treatment.	1
Medical research and CDISC standards	The course provides the overview of CDISC (Clinical Data Interchange Consortium) Standards, which are determined be obligatory to regulatory new drug submission in Japan, U.S.A, and EU, and will be widely used for medical research data collection, exchange, archiving, etc. in medical research in general besides regulatory clinical research around the world.	1
Mental Health I	The half of the course provides epidemiology of mental disorders in Japan and other countries, methodology to assess mental health, and current evidence for primary, secondary & tertiary prevention of mental disorders in the community, including workplace and schools. The latter half of the course provides a series of interactive lectures on implementation of available evidence in improving mental health based on practical cases, followed by a group work to develop a new mental health program.	2
Mental Health II	Students learn about occupational mental health, its history & present status, relevant legislation, guidelines & systems; basic theory of occupational stress; evidence-based effective primary, secondary & tertiary prevention methods, planning, and program evaluation methods. After examining case studies on mental health policy planning based on workplace characteristics, students engage in debate on specific ways to promote said policies.	2
Health Education	This first half of the course provides theoretical basis for understanding health-related behaviors and designing health educational intervention programs at micro and macro levels. Through in-class discussion, students will critically read a presumed view of human and society, strength, and limitations of each theory. The latter half of the course applies theories to real settings in workplace, community, healthcare settings, and school.	2
Health Sociology	The course provides a showcase of sociological theories of health and medicine, to encourage students to critically consider roles and meanings of health, illness, and medical/public health activities in societal context.	2
Health Promotion Science	In this subject, students learn and develop analytical and evaluation skills by collecting social and physical information on community and work-site health issues and by examining case studies. Students subsequently develop the skills to plan effective programs addressing health issues in small-group debates. Specific areas covered include: planning, implementation and evaluation of health promotion programs for life-style related disease and behavioral modification; basic theory of behavioral science; individual and population approaches; and various models used to create supportive environments.	2
Biomedical Ethics I	Students consider ethical & philosophical approaches which form the basis of ethical judgments in public health policymaking as well as clinical practice. Areas covered include: introduction to biomedical ethics & history; political philosophy; allocation of medical resources; and informed consent. These topics are addressed in lectures and small-group debates.	2
Biomedical Ethics II	This subject expands upon the topics covered in 'Biomedical Ethics I'. Students read and interpret important literature in the fields of law & morality, rights theory, confidentiality, medical futility, and meta-ethics.	2
Society and Health I	This lecture series provides a broader context of social determinants of health (SDH) including education, poverty, social isolation, living arrangements, social networks, income inequality, and social capital. Currently available theoretical and empirical evidence on SDH will be reviewed and its strengths and challenges	2

	will be discussed.	
--	--------------------	--

Subject	Description	Credits
Society and Health II	This course expands the discussions in Society and Health I to more practical and political contexts. Course activities include case-oriented discussions, students' group-based presentations on the topics on health equity issues and a health impact assessment workshop.	2
Theory and practice of occupational health	This class provides updated information of recent trends and global perspectives in occupational health. Also students learn basis of practical skills to pursue occupational health activities at workplace, through case studies and exercises.	2
Human Resource Development for Health	Participants will be able to learn human resource development for health (health professional education) based on principles related with education and learning through plenary and small group discussion.	2
Assessment in Health Professional Education	In human resource development for health areas, participants will be able to learn learner assessment, which is closely related with licensing and mastery of learning contents, including principles of statistics and psychometrics.	2
Health Policy	Using several cases related to healthcare policymaking & management, such as prevention and health promotion, access to healthcare, health insurance reimbursement systems, and health policy-making process, this subject provides students with a systematic understanding of various stakeholder perspectives, relevant social systems, funds procurement, and their management.	2
Healthcare Informatics	This subject consists of lectures on healthcare data management, data coding & classification, information technology basics & standardization, data processing techniques, healthcare information system & network technology basics and operation, healthcare information protection & security, and healthcare information system management etc.	2
Healthcare Informatics Exercise	The exercise covers practical healthcare data management & data coding techniques, data processing techniques, and healthcare information system design & management techniques, based on actual hospital information systems.	1
Public health informatics	Students learn the basics of public health informatics. To that end, the subject focuses on geographical information system, infection surveillance system and disease registration system associated information processing techniques.	2
Public health informatics Exercise	In this exercise, students learn about practical public health information engineering through case studies on geographical information system using R.	1
Forensic Medicine & Medical Law	This subject comprises lectures and debates focusing on the legal & social contexts of abnormal fatalities, particularly cases/precedents of death related to medical care. In addition to participating in an actual autopsy, postmortem examination & evaluation, students visit the law courts and engage in debates.	2
Forensic Medicine & Medical Law Exercise	In this exercise, students analyze the issues relating to coroner's inquest methods & systems in Japan and overseas through surveys of the deceased's relatives and physicians, literature searches, and fieldwork etc., and propose new methods and systems. The exercise also leverages the lecturer's practical experience on the Ministry of Health Labour & Welfare's 'Model Project on Inquests into Medical Care-related Deaths' with a role play assuming the roles of inquest personnel (nurses, physicians & coordinators) and education supervisors.	2
Medical Safety Management	In this subject, students become acquainted with actual medical safety management by investigating risk factors related to potential incidents & medical accidents in clinical practice, and engaging in practical debates on the development of systems for the promotion of medical safety as well as responses to medical accidents and past medical malpractice suits.	1
Medical Safety Management Exercise	Students acquire practical analytical & policy planning skills by gathering & analyzing materials from actual healthcare facilities relating to potential incidents in clinical practice, development of systems for the promotion of medical safety, and responses to medical accidents.	0.5

Subject	Description	Credits
Public Health Preparedness	This subject teaches students the basics of responding to health risk outbreaks through case studies of typical past cases on: field epidemiological survey methods to deal with health risks such as a new type of influenza, SARS, and bioterrorism; public health surveillance; identification of the causes of disease outbreaks; and planning, implementation & assessment of countermeasures.	1
Health Administration & Public Health Preparedness Exercise	In this exercise, students learn planning, implementation and evaluation of actual countermeasures against various diseases, organizational and preparedness management in public health practice, and the roles of the public health officers, by visiting actual health administration environments.	2
Environmental Health	Humans ingest various toxic substances from the environment including air, water, and food. This subject provides students with basic knowledge and concepts relating to identification of the biological effects of these hazardous substances, dose-response relationships, the pathological mechanisms by which harmful effects are manifested and biomarkers for initial diagnosis of their effects, and environmental defense measures.	1
Advanced Public Health Theory	This subject enables students to better understand the nature of health science contributing to public welfare, as well as the accompanying research & practical issues which need to be overcome, by addressing specific approaches and challenges from each of the School of Public Health's 13 research fields which constitute a contact point between public policy & activity.	2
Internship	Students attend public health facilities (public health research & testing facilities, think tanks, NPOs, healthcare facilities etc.) and leverage their subsequent practical experiences to develop skills in identifying personal initiatives, conducting analysis, and planning measures/policies.	2
Themed Research	Under the guidance of their research supervisor, students acquire advanced problem-solving capabilities through practical tasks such as fieldwork, data collection, analysis, statistical analysis and essay writing on a particular research theme.	6

公共健康医学専攻修了生からのメッセージ

原 雄二郎（医学部医学科を経て 4 期生 1 年コース、(株)Ds's メンタルヘルス・ラボ）



私は元々精神科医で臨床どっぷりでしたが、あるご縁で企業の 産業医を引き受けたことから、予防医学に魅せられるようになりました。そこで、SPH の門を叩き、正しい知識やエビデンスを生み出す技術、それをどのように社会に還元していくのか、そして何より、「公衆衛生の視点から世の中を良くしていこう」という「SPH 魂」を徹底的に学びました。一生の恩師である、川上教授や島津准教授にも出会うことができ、今もご指導頂きながら、社会に還元する装置として「Ds's メンタルヘルス・ラボ」という会社を起業するに至りました。SPH は、「世界を良くしたい！」「日本を明るくしたい！」大人になってこんな夢を本気で語り合える「SPH 魂」を持った仲間たちがたくさん待っていますし、そのような夢を実現できる場だと思います。

岩上 将夫（6 期生 1 年コース、London School of Hygiene and Tropical Medicine 博士課程）

私は医学部卒業後に初期研修 2 年、後期研修 2 年(腎臓内科)を経て、東大 SPH に入学しました。当初は 1 年間だけ疫学・統計を中心に公衆衛生学の基礎を学び、その後は医師として臨床や基礎研究に従事するつもりでありましたが、日本を代表して活躍される先生方の授業を通じて公衆衛生学の面白さ・奥深さを知ることとなり、この分野をより追求してみたいとなりました。そこで、東大 SPH 卒業後の同年 9 月からイギリスで最も歴史のある公衆衛生大学、London School of Hygiene and Tropical Medicine (LSHTM)の疫学修士コースに留学し、修了後に博士課程に進みました。現在はイギリスの大規模外来データベースを用いて、慢性腎臓病患者さんに処方される向精神薬の副作用をテーマとした薬剤疫学研究をしています。LSHTM の修士課程と比較して感じたことは、東大 SPH の授業は圧倒的に効率が良く、短時間で多くのことを教えてもらえるということです。留学に際して英語のハンディキャップはありましたが、東大 SPH で学んだ知識のおかげで授業やレポートに困ることはありませんでした。東大 SPH に入学する目的やその後の活かし方にはいろいろあると思いますが、公衆衛生学に関する最適な下地を作ってくれる場所であると思います。



井田 有亮（北海道医療大学大学院歯学研究科・博士課程
修了を経て8期生1年コース、東京大学）

多職種・多彩なバックグラウンドを有する学生が同じテーマで講義を受け、それぞれが独自の意見を表明して濃厚な議論を交わすという場があります。数少ないその一つが東大 SPH です。

専門性が高まれば高まるほど、各自のドメイン内での議論が中心になってしまうこれまでの医学・医療系の教育を受けてきた人にとっては、とても新鮮な感覚で毎日の講義を楽しく受けられる事は間違いないと思います。年々充実していく講義科目は、すでに卒業した私から見ても羨ましく思います。

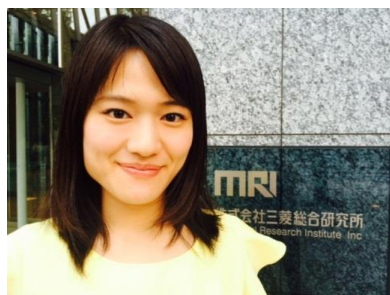
私は SPH 修了後、東京大学医学部附属病院の企画情報運営部で教員として働いています。院内の情報システムの企画・管理などの病院業務や、巨大なデータベースそのものである病院情報システムから得られるデータを用いた研究、そして SPH の講義・実習など多忙な毎日です。政府の会議に参加することもあり、広い視点をもって医療を捉えるための SPH で学んだ基礎知識がすぐに役立っております。歯科医師である私は白衣を着て診療することこそ無くなりましたが、常に医療の現場にコミットする臨床家の矜持をもって仕事に邁進しております。



堀越 早織（5期生2年コース、株式会社三菱総合研究所）

学部では文学部でフランス文学を専攻していた私ですが、医療倫理等への関心をきっかけに SPH へ入学しました。同期には医療従事者のバックグラウンドの方も勿論多くいらっしゃいましたが、知識の差をカバーし合いながらディスカッションができる雰囲気にも励まされました。履修できる授業も多岐に渡り、刺激の多い2年間でした。

修了後は「公共の福祉とは？」というテーマを胸に、民間シンクタンクに入社し、主に介護保険施策に関わる調査研究やシステム構築プロジェクトに携わる毎日を送っています。SPH で学んだ内容が、いかに行政の施策と大きく関わるものであったかを実感しています。また、授業や研究環境にも増して、SPH の先生方・修了生のネットワークの心強さには驚かされます。医療・介護といったヘルスケアの観点に、様々なアプローチで取り組める場が東大 SPH だと思います。文系の方も是非、気軽に門戸を叩いてみてください。





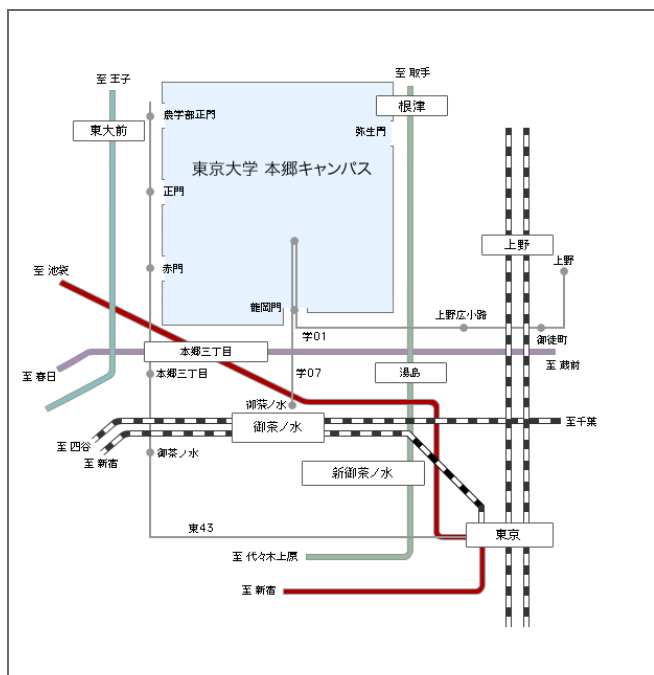
誰もが健康に暮らし、人生の目的に従って思いきり生き抜くことができる世の中づくりに貢献したい、そのような思いから学部卒業後 SPH に進学しました。SPH では、精神保健学教室に所属し、政策提言につながる大規模調査のデータ分析や東日本大震災後の保健活動を行いました。このような公衆衛生に関する技術的な学びのみならず、国際的に活躍する一流の研究者や実務家との出会いは私の職業選択や人生観にも大きな影響を与えました。また SPH で出会った仲間とは NPO (Initiative for Social and Public Health) を設立し日本の公衆衛生問題に取り組んでいます。卒業後は国際協力機構にて東アフリカ地域の保健分野協力の実施や WHO や国際学会での発信を行いました。現在は農業分野ではありますがプロジェクトの成果を図るために Randomized Control Trial という手法で研究を行っています。事業の実務家や農家の声を聞きながら研究としても妥当な内容なよう交渉や調整を進める作業を通じて、SPH で学んだことを実務に生かしていると実感する毎日です。将来は、研究者と実務家の橋渡し役となり、科学的根拠に基づいた事業の展開と成果の発信の推進役になりたいです。また、まだマイナーな分野ではありますが、途上国においても注目を集めつつある国際精神保健分野でも実務や研究に携わりたいと考えています。SPH は豊かな知識とユニークな人々とのつながりが得られる貴重な場所です。日本や世界の保健医療分野の問題に取り組みたいとお考えの人にはおすすめです。

湊 夕起（マサチューセッツ州立大学・ホリスティックヘルス専攻を経て2期生2年コース修了、世界保健機構勤務）



家族の介護の体験で感じた「人が健康に生きるには?」という漠然とした疑問が、その後の海外生活で多種多様な文化や生活様式に触れた時、社会生活と健康との関係や、保健医療に関する社会のしくみへの興味につながりました。学部では、『健康』をテーマに学術横断研究を試みましたが、その後、社会への働きかけ方をより具体的に模索するなかで、予防から生活の質にいたるまで、広範に人々の健康にアプローチができる公衆衛生に魅力を感じました。東大 SPH では、様々な健康問題の真実をどのように見、科学的な根拠に基づいて判断するか、集団にアドバイスをするために信頼のおけるデータが必要であり、そのためには調査の質が大切となることなどを学びました。世界保健機構 (World Health Organization) の ジュネーブ本部に勤務する今、対象となる集団の単位は国、複数の国をまたぐ地域、そして世界全体へと大きくなりましたが、SPH で得られた視点や考え方は日々の業務の土台になっていると感じています。世界規模で保健プロジェクトを進める現場では、様々な立場のステークホルダーが交わり、目標の共有や合意が難しい場面が多々ありますが、そのような国際的な討議の場で必要となる公正な視点や判断基準は、SPH での学びによるものが大きいとも感じています。志を共有し尊敬し合うことができる仲間に出会えたことも、東大 SPH で得られた大きな財産です。

アクセスマップ



※ 詳細については、公共健康医学専攻（専門職大学院）のホームページ
<http://www.m.u-tokyo.ac.jp/sph/>をご参照ください。

School of Public Health

The University of Tokyo

7-3-1Hongo,Bunkyo-ku,Tokyo,113-0033,Japan

2015 年 7 月発行